

別記様式

議 事 録

会議の名称	岩倉市地域福祉計画推進委員会（平成 30 年度第 2 回）
開催日時	平成 31 年 2 月 19 日（火）午前 10 時から正午まで
開催場所	ふれあいセンター3 階 視聴覚室
出席者 (欠席委員・説明者)	野口委員長、河村副委員長、山田委員、関戸康二委員、馬路委員、 小笠原委員、関戸誠委員、関戸八郎委員、山口委員、尾関委員 説明者：健康福祉部長（山北）、福祉課長（富）、福祉課統括主査（大 島）、主任（須藤）、長寿介護課研修生（若杉）、岩倉市社会福祉協議会 事務局長（森山）、主任（石井）、主事補（木村）
会議の議題	議題 第 2 期岩倉市地域福祉計画の推進について ①いわくら福祉市民会議 ②いわくらあんしんねっと ③スケジュール
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議に提出された資料の名称	（資料 1）平成 30 年度 第 1 回岩倉市地域福祉計画推進委員会議事録 （資料 2）いわくら福祉市民会議 平成 30 年度の推進経過と今後の推進方法について（案） （資料 2-1）平成 30 年度グループワーク実施状況 （資料 3）「いわくらあんしんねっと」の推進について （資料 4）平成 30 年度 第 2 期岩倉市地域福祉計画推進 年間スケジュール （資料 5）平成 30 年度～34 年度 第 2 期岩倉市地域福祉計画推進 期間スケジュール（案） （参考）岩倉市地域福祉計画推進委員会名簿
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0 人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

委員長：今日は第2回推進委員会なので、今年度の実績と次年度どうしていくかについて、5年計画なので計画的に進むよう議論していく。

2 議事

議題（1）第2期岩倉市地域福祉計画の推進について

①いわくら福祉市民会議

資料2と資料2-1を用い、事務局から説明がされた。

委員長：概要版を参照すると、基本理念があり、6つの目標を掲げ、なおかつ校区ごとに住民活動計画を立て、いわくら福祉市民会議を作っていくというのが計画の柱である。それに基づいて、校区で少しずつ地域事情が違うので校区ごとの目標なり方向性を会議で議論していただくとしている。やみくもにではなく、例えば北小区であれば5、6ページのところで住民活動計画はどう展開していくのだろうかという事を前年度議論した。その時に提起したのが生活・介護・環境・防災・健康という5つの大項目を提示して、その中から活動計画を作り、それを校区ごとに会議を開催しながら具体化させていくというやり方で取り組んできた。資料2-1のような経過で議論した。資料2の4、5、6ページで校区の具体的な取組案を提示したが、それぞれの校区ごとのメインテーマがあり、具体的な取組があるという説明であったが、意見はいかがか。校区ごとの市民会議のメンバーをどうしていくのかという苦労はあるのではないか。参加者が確保できたのか。

事務局：小学校区ごとに参加者のばらつきがある。北小4、曾野2、その他1グループである。

委員長：これから具体的な活動をしていくときに、それなりに人員の確保が必要になるかと思われるが、その辺りの働きかけをどうしていくのが平成31年度の課題になるかどうか。

事務局：例えば北小では、登下校の見守りをしていこうというのが現段階の案である。実際に見守りをやっている方も中に入るが、他の活動をしている方もいるので、このテーマでやるときは、今は市民会議に入ってきてないが、見守りをやっている人にも声掛けはしやすくなると思われる。具体的なお誘いのテーマが設定できるので、全体的なことを考えましょうというよりは、このことについて考えるので実際にやっている皆さん一緒に考えてくれませんかというお誘いの仕方はできると考えている。

委員長：偶然だろうが、5つの小学校区でメインテーマと今年やってみようという取組が違っているのが面白い。去年議論したときは同じようなテーマが出ていたが、実際にやってみようとするテーマはそれぞれ少しずつ方向性が違うということになった。北小は登下校時の見守り講習会、南小は防災訓練の改善、東小はマナー向上とコミュニケーション、五条川小は地域サロンの活性化、曾野小は誰もが参加できるつながりづくり交流会となっている。何かやり始めることによって人は集まってくるので、講習会をやったり拠点としてのサロンを活発化したり交流会を開催したりするのは、それぞれどうか。

委員：私も地域で単位クラブの役員をしているが、民生委員からこういうことを計画していきたいという呼びかけはある。こういうものの中の気持ちを汲んだアプローチかと思っている。こういうことから少しずつ芽が出てくると思うのでよろしいのではないか。

委員長：民生委員児童委員協議会の活動とどう繋がっていくか。

委員：それぞれの地域でそれぞれの繋がりがあり、民生委員は実際に関わっている。私はいわくら福祉市民会議も参加しているが、はっきり言って行きつ戻りつである。地元の芋煮会をみんなで行おうとして、見てヒントになるのではと他地区の民生委員さんが見学に来たが、結果的に難しいということになったが、実際に見てこんなふうにするというイメージが持てたり、やはりだめかなという議論ができたりすること自体進んだのではないか。ゆうわ会の会長も3回目の会議に参加したし、口コミや引っ張り出したりして参加してくれるというのも進んでいるのではないかと期待している。

委員長：もう一つ、校区ごとの会議を運営していこうとすると、それぞれの代表者会議をどう作っていくのかということもある。岩倉市の地域福祉計画なので、それぞれの校区の情報交換をどうしていくのか、校区ごとに地域に出てきていろいろなことを確認しながらの作業は行きつ戻りつということだろうが、その辺りはどうか。リーダーが見つからないか。

事務局：平成30年度は小学校区での会議というよりは、全体に召集をして、校区ごとのグループワークを実施することにより住民活動計画を進めていくという検討作業を1年間通してやってきた。どちらかというと事務局が集めた設定の中でこの時間を使ってやってくださいという進め方だったが、いざ、来年度以降実際に校区の中で具体的なことを実施しようとする、事務局の人員もなかなかグループワークでは割きにくい部分もあるが、参加された方の主体性などを考えても校区ごとに新たに集まったり、その中で誰を核にしてやっていきたいと思いますという議論したりといったことをそろそろしていかなければいけないのかなというふうに事務局としては感じている。よって、まだ誰が校区の中でリーダーだとかの働きかけをしているわけではない。

委員長：それをこちらが持ちかけることがいいかどうかというところも難しいところもある。ただ5年先がどんなイメージかという議論をしてきたが、住民主体というところを議論してきたわけであり、行政や社協もそうであるが、ともに住民が自分たちの空気をよくしていくためのアクションができるという状況を作っていこうところが第2期計画の柱だと思う。1年目は難しい年ではあるが、次に会議をどんなふう運営していくのが鍵になるという気がする。

委員：平成30年度の会議は3回やっているが時期が飛んでいる。同じ人が来ているかも分からない。同じ人にしても前回の議論は忘れてしまう。会議の議事録はどうしているか。来たけど来られなかった人にはどう周知しているか。いろんな人来てもらいたいなら定期的に昼中夕方平日土日、頻繁にやって誰もが参加できるとした方が良い。前回来てないがこういう議論があったなど議事録を確認しながら、意見を聴取できるような数を増やしたほうがよいのではないか。偏らないか。前回のことは覚えてない等状況に陥ってしまう。興味があれば毎月参加してきて集中して話し合いまとまっていくのではないか。

委員長：第1期計画の市民会議の部会は定例会だったか。

事務局：4つの部会それぞれ、毎月1回定例会をしていた。

委員：最初に集まった人しか参加できない状況だ。しかし年間でこうやっているとする、何か月後都合をつけてくる人もいるかもしれない。できるだけ出られるような配慮をした方が良い。

委員長：今の提案の中でいうと、会議の年間予定表を作っておき、昼間や夜などにちらばらせながら開催するという案をいただいた。

委員：もうひとつ、会議の議事録を人目に付くようにしてほしい。そうすると自分の意見とは違う

が実はこんな議論があったんだと分かる。そのように仕向けていかないといけない。

委員長：例えば、この地域福祉計画のホームページを立ち上げてそこに書き込んで流す。資料 2 の図程度でもよい。誰が何を言ったというのは書かなくてもいいので、おおよそのストーリーを載せる。

委員：初めて区長をやったが、最近心が折れている。新しい区長を決めるため、一日中頼んで回っているが断られている。断られるのは仕方がないが、断られ方がひどい。地域のこと近所隣のことはやらないからとか、興味ないと言われてしまうと心が折れる。現状そういう状態である。昔は 60 歳で定年になって割と元気なうちに頼める人がいた。今は 60 歳 70 歳ではまだ働いていて、退職して頼める状態になると高齢になっている。やはり区長などの仕事も働いている人ができるような仕事内容にしないとこれから絶対に受けてくれなくなる。子ども会も入っていない。市民体育祭に選手を集めてくれと言われても集まらない。子ども会も崩壊しそうで怖い。民生委員も保健推進員もなり手がいない。そういう状況なので初めて受けてここまでひどいとは思わなかった。

委員長：現状はそういうことで、日本のどこかしこもそう。ただそれでいいのか。自分の暮らしだけで、この計画でいう幸せになれるのかという問いかけもある。委員が述べたように働きながら地域活動ができるというのがこれからは不可欠である。女性もフルタイムに近い状態で働いている。仕事以外で何か自分たちがやっていくということを可能にするような働き方も必要だろうし、そういう活動のあり方も必要になるということだろう。こうやって平日の午前中に会議を開催しているが、そういうことも考えていかないといけないという事も言える。

委員：平成 30 年度のいわくら福祉市民会議に参加したが、比較的沢山集まっている校区とそうでない校区があって、入り口の段階で PR が不足なのかと思う。全市民に訴えるわけではないので、地域のことを大切に思っている人を集められるかどうかポイントだと思う。それには各区で無回答、不参加の区があると、校区ごとの議論をやろうとするときにいびつであるので、平等に最低限地域のことをよく分かっている人が一人は参加して、意見交換の場で意見を言ってもらおう。それを受けて同じ校区の者としてどんな連携ができるか問うことを考えてみるという反復がなされていないと、拡大としては今一步である。東小が一人の回があった。持ち帰って校区の中でもう一回振り返すという動きがないと次の機会はどうなるのだろうと思ってしまう。例えば南小校区はそれなりに区長や民生委員、比較的若い方の意見が出る機会があって、いろんな階層の意見が出るので面白いと思っているが押しなべてみると来ていない区があるのでこれはいけないと思う。やはり区長に一旗振ってもらうための努力をしてもらう必要がある。

委員長：キックオフフォーラムが 7 月にあったが、第 2 期計画の全体像、方向性を次年度地区ごとの参加が可能な設定で、働きかけの全体会議をやってみるという提案だったかと思う。それも大事だと思う。

委員：いわくら福祉市民会議の中に、参加してから地域に下ろすという人があるのかどうか。私は地域に根差した婦人会を目指し活動している。地元の婦人会は盛んである。また、区長が改革をしており、各団体長を呼んでお互いに協働ができることがないか呼びかけた。例えば盆踊りで激しい曲は婦人会ではできないので子ども会にお願いしたり、保健推進員は市から行

事をもらってくるから一緒にやれるようにしたりといった意見があった。区長が市民会議に出ていき、そこで検討した地域に持ち帰って広めてもらうというのがいいのではないかと。私は防災分野も関係しているが、来年度は防災についてやってもらえないかと提案している。校区もいいが、まず地域をやっていかないと、上のことばかり言っても仕方ない。足元固めが大切だ。婦人会も昔は各地域で盛んであったが今は他の地域では盛んとは言えない。自分の地域で活動できて有難い。

委員長：第2期計画策定のプロセスで、ボランティア・NPO・市民活動団体・生涯学習サークルなど市内で活動している団体をリストアップした。そういう情報を校区の会議で喧伝し、どう結びついていくか提起していくことのように感じた。それはできるのではないかと。

委員：いわゆる福祉市民会議について地区での啓蒙がほとんどない。気のある人は来るが、啓蒙をしながら各地区の方々を探してみようと、参加をさせる形態が市民会議のあり方ではないかと。私の住んでいる地区はその辺りの連携はスムーズだが、他の地区が努力しても相手がついてこなかったら意味がない。いかにしていく魅力を作っていくかといけな。私の知る自治体では、区長会において市民全体で考えることを行政から投げかけ、区長の中でこう進みたいという人を抜擢し、市民とタイアップして実施しており、区間で競い合っているという話も聞く。こういう場を作ることが必要ではないか。この日にやるから集まってほしいという啓蒙をしなかったら、委員だけの井の中の蛙に終わってしまう。

委員長：第2期計画はそういう意味もあり広げようと校区をベースにやってみようとした。校区の活動だけを推進すればよいわけではない。

委員：ここから拾って市民全体で考えるように進めていかないとなかなか前へは進まないと思う。

委員長：今のところで行くと、会議のことをもう少しアピールするのが第1歩で、委員が述べたように、いつどこでどうやっているということを早めに決めてアピールしていくということも大事だ。

委員：自分の活動の中で進めていきたい課題がありやっているが、人集めは難しい。やはり伝わっていないとも思う。伝えようとする段階を経て時間がかかる。末端まで伝えようと思うと相当前からいつやるかが決まっていけないし、それをどの段階でどこに伝えるかという事もよく考えてやらないと伝える前に開催されてしまっているという状況があると思う。年間で決めて1か月半前に出すところに出しておかないと、案内を受け取った人の認識で自分だけ知っておけばいいのか会員まで回さないかといけな。判断があるので、主催者側がどこまで望んでいるのかも大事だ。終わった後も同じで知らせたからには報告が必要である。次はこういうテーマでやるので次は来てほしいというところまでやらないかと伝わっていないのではないかと。私自身もアンテナが立っていなかったのか市民会議の日程を知らなかった。その程度の周知だったのか。計画的に戦略戦術を練っていないとこれだけのものは伝わっていないのではないかと。

委員長：策定後1年目はアクセルを踏みだすまで時間がかかるが、ここまで進んでいることをどのように充実したものにしていくのかのアイデアをいただいた。やはり早めにプランニングをしてそれを伝えていく方向を工夫しないといけな。

委員：五条川小校区に参加している知人が地域サロン「笑わ亭」を始めた。中からこういうふうが発信しているんだと改めて見る事ができた。始めたのはいいがそれを継続していくことが

大切だ。区で問題として思っていることは、やはり区全体で関わらないといけない。ここまですでに収まっている問題ではないと思う。その辺りが続けていくうえで問題だと感じた。

委員：地域福祉計画に関して、この議題は区長会に出ているか

事務局：出ていないが、区長にはお知らせはしている。

委員：区長会でしてもらわないといけない。募金の話は結構あるが、それは区長にばかり任せるところでない。区長会の中でこういうものを理解してもらえるように話して、回覧などをすれば周知は今よりはかなり行けると思う。

委員長：名古屋市中区では地域福祉計画の概要が回覧版で回っている。目を通すことができるし、必要ならばどこでももらえるかという案内もあった。

委員：いろんな団体が市民活動支援センターにはいるが、活動している方は地域活動に関心が高いので、こういう話題は機会ごとでPRできるといい。

委員：昔は障害者団体として区長に物販の販売などお願いに行った。今は代表の人がお願いにくるといえることはないか。

委員：やってない。

委員：区長は1年ごとに交代だから非常に忙しい。他の行事がいっぱいあって、新しい行事を入れてもらおうとしても入らない。ただ、参加して地域に下ろせる人がこういう会議に出ていかないと意味がない。

委員：ホームページで周知してほしい。参加してもらえるように周知も大事だが、流すことによって参加したくなるような内容を周知すればよい。また、参加しないと意見が言えないのか。こういうことを思っているという意見表明ができる機会を作り、そう思っているなら意見を聞かせてほしいと市民会議に誘えるような仕組みはないか。最初の発信だけは参加しなくても意見が言えるような仕組みは良いかと思う。

委員長：そういう仕組みを作ればよい。書き込みができる。地域福祉計画の趣旨を理解していただいたうえで意見聴取ができるようなコーナーを作ることができるかどうか。それを考えていただきたい。いろいろ提案をいただいた。資料2の平成31年度の方向性のところで、市民会議がプラットフォーム型であり、ここにいろいろなことが集約されながら発信もできるという形ができてくれば良いし、先程あったような大勢の方々がここに結集していくというプラットフォームになっていく仕組みを検討するというのでよいか。実はこの市民会議は他にあまり例のない取組の仕方である。事務局が大変なることを覚悟しつつ、しかもそれを5つの校区ごとに発信元を作っていくという、複雑な構造を持ちながら2期目をスタートさせている。委員の皆さんもご理解いただければと思う。

②いわくらあんしんねっと

資料3を用い、事務局から説明がされた。

委員長：いわくらあんしんねっとの発想は、計画推進体制のイメージとして計画書の15ページの図を参照してほしい。それぞれ地域の中で活動をするときの役割があり、それを考えたとき、地域にしあわせと安心を作っていくとなるとこの委員の皆さんは地縁ネットワークあるいは地域福祉協力者ネットワークにおいて活動や仕事をしていることになる。住民が地域のベースを作り、そのベースに基づいて、いろいろな困りごとを専門職が具体的に解決していくと

いう事なので、縦軸の上部に専門職ネットワークを置いている。それぞれの役割の中のネットワークがある。今、専門職ネットワークあるいは地域福祉協力者ネットワークという2つを含めていわくらあしんねつとというのを考えてみると、まずは専門職が仕事として地域福祉を推進していく役割を担っているの、専門職部会を置いている。専門職なので当然自分の目の前の仕事を自分の役割としてやっていくことも重要だが、いわば専門職群として自分たちがどのような仕事をしているかという事をネットワーキングした方が良いというのが趣旨である。なので、それぞれ高齢者部会、障害者部会も含め、それぞれ自分たちの事業を抱えているのでそれをまずきちんと実施していただく。それと同時に、それ自体を地域福祉の枠組みでネットワーキングしてみようとしたものである。それぞれのネットワークがあるが、それを繋げていくのが、実に難しい。いろいろな壁や問題があるので、必ずしもこの図のようにうまく出来上がるかどうかは難しいが、やがてそれぞれの部会がもう少し広がりを持ったり、区長会や民生委員会、老人クラブ、子ども会のような組織とうまくネットワークしながら、さらに地縁ネットワークが使われていくという構想をしながら地域福祉計画を作ってきた。顔の見える連携というのは専門職か地域福祉協力者団体で活動している人達が繋がっていく仕組みが作れないかと2つの輪を繋げる作業をするということを意図している。2月14日の顔の見える連携交流会に参加した方々の感想などあれば聞きたい。

委員：顔の見える連携交流会には、3、4回参加しているが、非常に大切な繋がりのお機会だと思う。市内のいろんな関係の人が集まり、有機的に繋がって大きな仕事をなす必要があるという時期がもう間近に迫っているような感じがする。そういう意味で、今回の交流会で、事例検討をしたが、世の中に起こっている地域社会における一つの事象としてDVや学校内での子供の不健全な育成がある。地域社会は大なり小なり歪んでいて、何かの格好で地域の適正な判断力と是正処置が的確に行われる必要があるという事は常々よく分かっており、私たちが傍観者ではいけない。2時間研修を受け勉強をした。しかしながら、次の機会までまた1年待つのかという感じを受けた。せつかく顔を見たので、普段から何かの時に連携やお願い、困ったことの相談が自然に取り組めるような連携ができるとよい。その保証はどうしてくれるのか。私たちの周りにやたらと事象はあって傍観者ではいけないと感じたので、できるだけ早い時期に地域の隣近所の仲間作りから始まって専門職の方を含めて、深い繋がりとお協力要請が簡単にできる世の中を早く築きたい。ぜひ一日も早くそのための努力をお願いしたい。

委員：私も1回参加したが、とても良かったので、この取組は続けてもらいたい。成果はすぐ出ないと思うし、ネットワーク構築が目的であるが、それだけでも良い。市と関係のあるいろいろなところに声をかけ、あれだけ参加があり、こういう人達がこういうところで活動しているというのがお互い分かるだけでもとても良かった。

委員：出られない人もいる。どんな人が出ているという情報をしらせてほしい。こういうところこういう人が出てくれたんだと興味を沸けば、事務局を通して、実際に会えばその人の顔が見れるし、広がりができる。1年に1回しか開催してないが、せつかく開催したことがもっと広がるようにしてもらいたい。一方で、基本は近所の隣同士の連携ができているかという事も心配である。そのようなところまで繋がると良い。

委員長：当初、1年に1回と言ったわけではない。1年に1回にならざるを得ない事務局の事情は何か。

事務局：1年に1回しかやらないと決めたわけではない。

委員長：別に責めている訳ではなく、これだけの仕事をするというのは実は大変なことだと思う。

呼びかけをして知恵を出してどう持っていくかという段取りをするまで大変だろう。その大変さをこの場に出して、どうすればそれが合理化できるかという事を考えた方がいい。

事務局：事業所にまず呼びかけるが、手間ではない。各福祉専門員も多忙という事業はある。事業所は働いている時間帯に参加してもらっている事情もあるので、何回も出席となるとなかなか厳しいかもしれない。

事務局：例えば高齢者福祉計画では多職種連携として医療と介護等の連携を実施している。また今年度、地域自立支援協議会では、障害者と高齢者が繋がる活動も実施している。いわゆる連携というものは各個別計画でそれぞれやっていて、自分の分野プラスアルファ他分野という交流会をしている現状もあるので、地域福祉計画の役割としては少なからず年に1回は全ての分野を横串に刺すような交流会を実施するというイメージでやっている。

委員長：あまり難しく捉えず、個別にやっている事例検討をここの中に持ち込むという事でも良い。推測だが事例検討のための事例を持ってるのが大変な作業だと思う。そうであるなら、そう面倒くさがらず、例えば子ども部会でやっているものをここにもう一度持ち込んでみて、子どもに関わっていない人達がどのようなアプローチが出てくるだろうかという事でも良いと思う。その辺りも踏まえ、せめて1回ではなく、もう少し集まれる状況を作りながら、大規模でなくても実施した方が良い。1年に1回だと次回開催時にメンバーが変わってしまう事業所もあるし、引継ぎも含めて、少し考えていただければと思う。

委員：参考になるか分からないが、4年程前から毎週土曜日の早朝6時に喫茶店に集まっている。平日や夕方だと用事があるので土曜の早朝にしている。題材はあえて決めていないので、その回は嫌だから来ないという事もない。そんなことでも顔の見える交流会である。また、史跡公園でラジオ体操をしているが、健幸都市宣言をしたのでラジオ体操をしながら顔が見え、近況の話ができればそれでもこういう形になるのではないかと。簡単に集まれて自然と会話が弾んで、近況が語れる。日頃のコミュニケーションがものをいうと思う。

委員長：それが3層の部分。3層と2層1層が一つになっていく、委員が述べたようにそのことが益々必要な社会になってきたということである。皆が自分のことを守っていただけではいい社会はできないということが起こりつつある。

委員：強制的に集めるのはなるべく少なくして、この指とまれで関心がある人が出てくる場をたくさん作る。そういう場であれば自分から進んでいくので苦でもない。しかしながら、参加する側はなるべくイベントと会議は減らしてほしいと思っている人も多く、やはりいろんな人が集めようとするとは半ば強制的に作らないと、会えない人もいる。

事務局：地域自立支援協議会でも事業所交流会を開催したし、この顔の見える連携交流会でも事業所を呼んだが、アンケートを読むとやはりこういう機会は作ってくれて有難いとか、あればまた参加したいという声がある。年に1回しかないのかと書いてあることもある。

委員：初めて参加した。グループで知らない人ばかりが集まるが、こういう仕事をしているという事が分かるだけでもプラスになる。課題については、今日の情勢を問題提起して実施したが、それよりもまずそれぞれの立場で、仕事上前に進まないが、参加して勉強し、意見を参考にしたいということをお互いにやるだけでもすごく大きい。こういう機会は年に3回やらないと

いけない。3回くらいやっていい加減であり、それはものすごく大切である。

委員長：事業所はメンバーを変えてもらってもいい。

事務局：一つの事業所で複数名が参加するところはまずない。

委員長：3回やれば3人出てくるというふうにしてもらえるといい。出るほうも勉強になる。専門職も視野が広がる。

事務局：専門職の集まりになるので、専門職を納得させられるようなことをしていこうとすると、なかなか難しい面もある。

委員長：そこはよい。専門職なのだから、どんな状況でも対応できないといけない。専門職とはそういうものである。この議題はここまででよいか。

委員：異議なし。

②スケジュール

資料3を用い、事務局から説明がされた。

委員長：今日出てきたことからすると、一つは区長会、民生委員児童委員協議会という地域の中でいろいろ活動されているところに、この地域福祉計画をきちんと説明をする事が必要だという事なので、平成31年度の年間計画にはそれをまず入れていただきたい。もう一つは、顔の見える連携交流会は、事業所の人事異動などもあると思うが、できれば来年度は複数回を目標にするという事になる。地域福祉推進フォーラムは何を意図してやるのかというのは、もう一回真剣に考えていかないといけない。フォーラムは第1期計画では地域福祉計画の推進報告会の意味もあったが、第2期ではそういう形で持っていけるかどうか難しいかもしれない。フォーラムのあり方を検討しておかないといけない。

委員：庁内連携はお願いしたい。いろいろなところに関わる事業なので、特に市民活動支援の立場から言うと協働推進課の関わりは本当に大きい。市民活動団体に関わる人が多いので、そこに情報が入って下ろせるような形にしていてもらいたい。他にもいろんな課が関わると思うのでお願いしたい。

委員：平成31年度の年間スケジュールを作らないと同じ事になってしまう。終わった後でこういうことできませんでした、この時期になってしまいましたという感じになってしまう。策定後1年目は分からないこともあるかもしれないが、2年目からはきちんと作らないといけない。

委員長：平成31年度の年間スケジュールを早速作ってお示しをしていただく。事後報告でよいか。

委員：作ることが大事である。

委員：同意見である。行きつ戻りつと言ったが、進むことが遅い気がする。目的を設定し、ここまではそれぞれの校区でやりたいことをああでもないこうでもないというのは大事な話し合いではあるが、次の年度はもう少し何らかの方向性はあった方がよい。例えばいわくら福祉市民会議3回では足りないようだったら、学校区ごとに別の場所でそれぞれ集まり、話し合いの場所を設けたりするのもそろそろ必要ではないかと思うが難しいか。

委員：児童に配付したらよい。

委員：工程表を作るときはやりたい開催時期に対して何か月前、何日前に何をやってその前に何をやってというネットワークという工程を作らないとやれない。それに向けて進んでいかないといけない。自分の活動はそうやっている。皆に配ったスケジュールの他に、自分ではその

前の3つくらいの工程を組み込んだスケジュールを持っている。そういうふうにはしないといけない。

委員長：早速、平成31年度のスケジュールを作ってもらことになる。資料2の内容を推進していくという事なので、5項目すべて埋めるという事ではないので、いわくら福祉市民会議の皆さんが1年かけてここまで議論した内容を推進していくにはどうしたらいいかという事をスケジュールに落としてほしい。

もう一つ、庁内連携会議を立ち上げていただきたい。この2つは宿題としてお願いしたい。事務局会議で5校区に事務局を一人ずつ張り付けるということを提案したがどうなったか。

事務局：小学校区ごとのグループワークの各グループには、職員を何とか一人ずつ張り付け、担当者体制と呼んでいるがまだまだ弱い。

委員長：担当者の5人プラスアルファが課内、部内、社協を含めチームを編成してほしいとお願いしておいた。そのグループが中心になって、校区の活動を推進していく。やはり相談相手がいないと皆さん困ってしまうと思う。

委員：校区ごとに事務局を置けるとよい。

委員長：それを作ってくれという事である。一人が一つだが、副担当が就けばよく、主担当と副担当が二人いれば回るのではないか。

委員：そうすると校区の連絡係として担当者との窓口になる人が必要だと思う。仲間で集まって話合っても連絡する人がないと終わってしまうので、責任を持って次回何をどこでやるかということについて、いつも連絡を取ることは必要かと思う。

委員長：いい勉強の機会であり、こんなチャンスはないと思う。それをお願いしておく。早速、支援体制共同事務局会議で平成31年度のスケジュールを確認していただく。今の要望をどの程度実現できるかという事をお願いしておく。スケジュールの結果は年度明け早々が難しければ、郵送で承認という形にしていただきたい。あえて推進委員会を開くという事ではなく、付け加えることがあれば文書か口頭で意見をいただく。

事務局：平成31年度の1回目の会議の時期はどうするか。

委員長：この会議は次どうするという事を議論する場なのである程度進行していないといけない。

委員：このスケジュールは半年とは言わないが、3か月前にはできていないといけない。

委員長：本来、今の時期にはできていないといけない。

委員：今日の会議には出てこないといけない。それを4月以降の会議に出されてはいけない。

事務局：スケジュール案は年度内にお示しできればと思う。

委員長：日にちまでは入れなくてもよいが、月間別の年間スケジュールをお願いする。

3 その他

特になし

委員長：他に無ければ、会議を終了する。進行を事務局にお返りする。

健康福祉部長：長時間にわたり議論いただきありがとうございました。野口先生のお計らいにより2回目の会議ではありますが、密度の濃い内容でいろいろ検討していただいたと思います。今年度は第2期計画を作ってから1年目という事でグループワークが中心であったということでありましてけれども、ご意見にありましたように、行きつ戻りつで来年度はしっかりと次

のステップを図っていかねばいけない時期だと思しますので、事務局側の体制もご要望
いただいたとおり、しっかりと窓口を作って進めていかねばなかなか実行には至らない
と思しますので、今後ともまた皆様のご協力をよろしくお願いいたします。本日はどうもあ
りがとうございました。